



インスピレーションになるう

Rotary



国際ロータリー第2610地区

南砺ロータリークラブ

クラブ会報

なんと

NO. 2447

URL <http://www.nanto-rc.jp>

E-mail [office@nanto-rc.jp](mailto:office@nanto-rc.jp)



例会日/火曜日 12:30点鐘 例会場/富山銀行福光支店4階 ◆事務局/富山県南砺市福光7336-4 ぶくみつ光房内 ☎ 0763-53-1333 FAX 53-1334

撮影 写真同好会 谷村修基会員



関市モネの池

第2507回例会 令和元年6月11日(火) 晴

- ◆点 鐘 12:30 岩木貴之会長
- ◆司 会 森 悦夫 SAA
- ◆ソング 「奉仕の理想」
- ◆会長の時間 岩木貴之会長

本日の例会は、13名の方がエジプトに行っておられるので、出席者はかってない位に少なく大変さびしい思いがいたします。

先日、7日に近隣5クラブ親睦ゴルフ大会が行われ、宮川さん、久恵さん、石崎和三さん、私の4人で参加してきました。各クラブ上位4名でのネット合計で、当クラブは、ギリギリの4名での参加でしたので余裕はなく、真剣になりました。そのせいか4名とも6位内に食い込み、優勝杯を死守しました。



◆幹事報告

久恵龍三幹事

- ①G事務所より「薬物乱用を無くそう！」案内について
- ②G事務所より「第15回R日韓親善会議2019の案内」
- ③高岡北RCより、例会変更の案内以上受領。

◆委員会報告

●雑誌・広報委員会

三吉外男委員長

「友」6月号の内容をご紹介します。まず、横書き20P～22Pです。今年が、日本のロータリーの創始者の一人であり、大正9年創立の東京ロータリークラブの創立者でもある、米山梅吉氏の生誕151年目に当たることについての記事が載っています。昭和21年に78才で亡くなるまで、社会奉仕に献身しつづけたとの事ですが、米山記念館評議員の小林氏から、米山氏に関する通説について、4点の知りたい事を会員に問いかけておられる記事があります。これは、生前の米山氏は自分に関する事を語るのが極めて少ない方だったそうで、ロータリアンの中で常識のようにしている内容への経緯を知りたいとの思いからだそうです。

あるあるその1…「例会は人生の道場」説

あるあるその2…「アメリカの大学で法学を学んだ」説

あるあるその3…「ロータリーを知ったのは1918年元旦」説

あるあるその4…「シカゴ世界博覧会で、ポール・ハリスと邂逅」説

次に、縦書き9P～12Pです。ここで再び米山氏関連で、静岡県東部にある「長泉(ながいずみ)クラブ」がとりあげられております。この長泉町に、米山氏の本邸と別邸があったが、本邸の跡地に「米山記念館」が建ち、近くにはお墓も有るそうです。

以上、縦、横ページ共に米山氏関連記事掲載のお知らせをもって、本年度のご紹介を終りといたします。

●友好交流委員会

片山浩一委員長

50周年記念式典に富士見ロータリークラブより多数参加頂いたお礼に、バスタガバナー岡部一輝君と岩木会長と3名で訪問しました。訪問時の報告は岡部君よりいたします。

●富士見クラブ訪問報告

岡部一輝委員 (GE)

45周年を迎える富士見クラブの例会は、規律正しく、和やかななかにもけじめがある、素晴らしい例会だったなあと感じました。会長始め皆さんから大変な歓迎を受けました。坂本PGは、世界大会出発の前日にも拘らず時間を割いて戴き、規定審議会の審議模様など生に聞けたのは、参考になり、ありがたい経験でした。

(今回の会報担当・木本修一)

☆ ニコニコボックス

6/11 松村壽副委員長

岡部君 梅雨に入り昨日も大きな雨の中、ゴルフをしました。今日は天気も良く、気持ちがいいですね。来週の例会は欠席します。

松本君 早退します。

船藤君 早退します。

本日のプログラム 6月18日(火) 第2508回

クラブ創立特別記念例会および例会2,500回開催記念担当 岩木貴之会長

近隣5RC親睦ゴルフ大会連覇！2位小矢部中・3位砺波

順位	参加者名	OUT	I	N	GROSS	HDCP	NET
優勝	岩木 貴之(南砺)	42	38		80	9.6	70.4
2	宮川 功(南砺)	39	38	B.G	77	4.8	72.2
3	林 規明(砺波)	41	41		82	9.6	72.4
4	島 竹世(小中)	41	41		82	9.6	72.4
5	久恵 龍三(南砺)	42	42		84	10.8	73.2
6	石崎 和三(南砺)	43	44		87	13.2	73.8
7	出合 和仁(小中)	52	52		104	30.0	74.0
8	川越 康宏(小中)	41	43		84	9.6	74.4
9	吉田 康弘(小中)	53	54		107	32.4	74.6
10	福田 一雄(小中)	50	48		98	22.8	75.2
11	高瀬 外喜治(小中)	47	45		92	16.8	75.2
12	齋藤 彰(東と)	52	57		109	33.6	75.4
13	森 吉信(小中)	47	49		96	20.4	75.6
14	嶋田 隆良(小)	53	53		106	30.0	76.0
15	米原 嘉孝(砺波)	53	58		111	34.8	76.2
16	宮窪 大作(東と)	48	52		100	22.8	77.2
17	岩田 豊(小中)	54	49		103	25.2	77.8
18	澤田 勇(小)	56	56		112	33.6	78.4
19	杉野 朋子(小)	61	49		110	31.2	78.8
20	小西 勝(東と)	54	54		108	28.8	79.2
21	本江 真吉(砺波)	50	44		94	14.4	79.6
22	山下 満(東と)	50	56		106	26.4	79.6
23	山本 裕二(小中)	52	48		100	20.4	79.6
24	上井 章(砺波)	56	55		111	31.2	79.8
25	津田 輝雄(小)	53	48		101	20.4	80.6
26	藤田 淳二(小)	46	47		93	10.8	82.2





本日は"WGIP"(ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム)について調べてみました。これは賛否両論、いろんな意見がありますが、今日はどちらにも肩入れせず、中立的な立場でお話いたします。

WGIP(War Guilt Information Program)とは、大東亜戦争後の昭和20(1945)年からサンフランシスコ講和条約発効によって日本が主権回復を果たした昭和27年までの7年間の占領期間に、連合軍最高司令官総司令部(GHQ)が占領政策として行った、戦争への罪悪感を日本人の心に植えつける宣伝計画のことであります。

これは文芸評論家の江藤淳が、GHQの内部資料を調べ上げ、1989年自身の著書であります"閉ざされた言語空間 占領軍の検閲と戦後日本"にて発表しております。これは太平洋戦争史という宣伝文書を「日本の「軍国主義者」と「国民」とを対立させようという意図が込められ、この対立を仮構することによって、実際には日本と連合軍、特に日本と米国とのあいだの戦いであった大戦を、現実には存在しなかった「軍国主義者」と「国民」とのあいだの戦いにすり替えようとする底意が秘められている」と分析。また、「もしこの架空の対立の図式を、現実と錯覚し、あるいは何らかの理由で錯覚したふりをする日本人が出現すれば、「ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム」は、一応所期の目的を達成したとってよい。つまり、そのとき、日本における伝統的秩序破壊のための、永久革命の図式が成立し、以後日本人が大戦のために傾注した夥しいエネルギーは、二度と再び米国に向けられることなく、もっぱら「軍国主義者」と旧秩序の破壊に向けられるにちがいない」とも指摘しております。また、「軍国主義者」と「国民」の対立という架空の図式を導入することによって、「国民」に対する「罪」を犯したのも、「現在および将来の日本の苦難と窮乏」も、すべて「軍国主義者」の責任であって、米国には何らの責任もないという論理が成立可能になる。大都市の無差別爆撃も、広島・長崎への原爆投下も、「軍国主義者」が悪かったから起った災厄であって、実際に爆弾を落した米国人には少しも悪いところはない、ということになるのである」という洗脳作戦だと指摘しております。

まずアメリカ側が戦争というものをどのように考えていたのか明確にしておきますと、戦争は軍事戦、政治戦、心理戦に分けられる。政治戦とは政治的手段によって、心理戦とはプロパガンダや情報操作によって、相手国やその国民をしたがわせることであります。最近のイラク戦争やアフガニスタン戦争を見ても、軍事戦の勝利だけでは、目指す目的が達成できないことは明らかであり、それを達成するためには、政治戦と心理戦においても成功を収める必要がある。そうしないと、軍隊が引き揚げたとたん、政治は戦争の前に逆戻りし、民衆は復讐のため再び立ち上り、戦争をもう一度しなければならなくなるからであります。

具体的にはまず、この戦争の名称をすべての公文書において"大東亜戦争"から"太平洋戦争"へと変更させられております。大東亜戦争とは終戦まで日本が呼んでおりましたこの戦争の呼称であり、日本の立場から見た戦争、すなわち西欧列強に植民地支配されている東南アジアの国々を開放し、ともに共存共栄するための大東亜共栄圏を作り上げるという大義があったわけですが、片や、連合軍側の立場においては、残虐非道な日本軍の東南アジア侵略を防ぎ、正義の鉄槌をあたえるという大義名分がこの太平洋戦争の呼び名でありました。そして1945年12月より開始されたNHKのラジオ番組「真相はこうだ」により、この戦争の残虐的行為を日本人に知らしめております。このマスコミに対する規制(マスコミを利用

◆会員卓話【3分間スピーチ】

- ※谷村修基君 入会11ヶ月の経過の中で、指名される役がこなせるか、否かの不安だったり、美食による?体重の増加に悩んでいる。
- ※三吉外男君 南砺ロータリークラブ創立会員の石崎博之さんのおかげで、今日の当クラブにつながっている。
- ※石崎博之君 創立会員では故西川雄策と二人が残っていた。50年以上の在籍ロータリアンとなりましたが健康でありたい。
- ※松村 壽君 石崎博之さんとは幼少期より今日までの交流は有難い。交換学生とも縁が有り、また、ニコールも町中で見かけたものである。日本に興味を持ってきて今大学で教えている。
- ※森 雄一君 4人の交換学生の受入がありました。交換制度が大きな成果を挙げていると思うので、今後もお勧めしたい。

- ↑して行った行為)要するにしなければならないことが30項目あるといわれていますが、その一部を紹介しますと
- ①連合軍最高司令官もしくは司令部(GHQ)に対する批判
  - ②東京裁判の批判
  - ③日本国憲法(GHQの起草)の批判
  - ④検閲制度に対する批判
  - ⑤米、英、露、朝鮮、中国、その他の連合軍への批判
  - ⑥満州における日本人の取り扱いに対する批判
  - ⑦連合軍の戦前に対する政策の批判
  - ⑧第三次世界大戦に対する言及
  - ⑨冷戦にたいする言及
  - ⑩軍国主義やナショナリズムの宣伝
  - ⑪大東亜共栄圏の宣伝
  - ⑫戦争犯罪人の正当化
  - ⑬占領軍兵士と日本人女性の交渉
  - ⑭ヤミ市状況
  - ⑮占領軍軍隊に対する批判
  - ⑯餓死の誇張
- などなど、であります。

WGIPは、米軍の占領直後に始まり、サンフランシスコ講和条約によって日本が主権を回復した昭和27年までの7年間の占領期間に実施されたものであります。その影響には計り知れないものがあり、時間的な7年間の影響力に慄然たる思いが軍国主義(者)を悪玉とし、国民は被害者とする二分法は、単純ではありますが、より一層効果的といえるのです。繰返し発信により、国民のイメージ形成を行い、刷り込みを行う巧妙な手法であり、洗脳されていると気付かぬうちに洗脳してしまうと云うのは極めて巧妙という他ないと思われまし、人間は意外に弱いものだと感じます。

端的に言えば、日本(軍)悪玉論、大本営・軍国主義・一部政治家は悪で、国民は被害者、原爆投下は米兵の命を助ける為、日本の残虐行為に日本国民は反省すべき等々日本人の誇りや事実関係を一切否定し、米側に都合のよい情報のみを垂れ流し、日本を貶め、戦前からの日本の価値観をも否定する自虐的思想が横行し、WGIPが残した毒は、政、財、官、法律、教育、マスコミ等あらゆる分野で、今も枢要の地位を占める人を含む、多くの日本人の思考を今も縛っているという論理であります。皆さんはどのように感じられましたか。

◆出席報告

水口秀治会員

会員数	6月11日出席率	5月28日の修正
47	51.06% (欠23)	78.72% (欠10メーク5)

メーキャップ:荒井進君、大西正芳君、岡部一輝君、北島芳信君、船藤幸生君。

次回の予定 6月25日(火) 第2509回  
クラブ協議会(年度の要約)  
担当 岩木貴之会長